

小中一貫校における英検 I B A 結果を活用した授業改善

利尻富士町立鷺泊中学校 学級数3 (校長 河野 弘貴)

実践の概要

「小中9年間を見通した教育課程の編成(教育課程における一貫性の確立)」に向けた取組の一つとして、中学校の英語教員による小学校高学年への乗り入れ授業を行っている。また、英検 I B A の結果を分析し、授業改善に生かすことで発達段階や小中の連続性、生徒の学習状況を踏まえた授業改善を推進している。

1 実践の目的

利尻富士町では、令和5年度より「学びをつなぐ 未来をつなぐ 人・地域をつなぐ」というテーマを基に小中一貫教育の取組を進めている。特に「小中9年間を見通した教育課程の編成(教育課程における一貫性の確立)」を目指して、中学校教員が小学校第5・6学年の外国語科の授業を実施したり、CAN-DO リスト形式の学習評価を系統的に位置付け直したりするなど、小中7年間の一貫した外国語教育を推進している。

2 実践内容

(1) 実施計画

4技能5領域のつながりを意識し、学年ごと段階的に重点をおいた指導の実施
英語検定取得を目標の一つとした授業づくり及び生徒の支援の実施

(2) 取組の具体

英検 I B A の結果の活用

英検 I B A の分析結果から「リスニング」におけるスコアに課題が見られたことから、4技能5領域のバランスを重視し、それぞれの技能領域のつながりを意識して、対話を中心とした言語活動を授業の中で位置付けている。「聞くこと」から「読むこと」へ、「話すこと」から「書くこと」へをテーマに A L T と連携し、小学校と中学校の系統性を意識しながら、実際に話したり聞いたりする中で、他者の話すことを聞き取るのみならず、自分の発話も聞くことをとおして、「聞くこと」を意識して活動し、授業の最後に振り返り、自己評価をして、資質・能力を身に付ける授業の工夫をした。

令和5年度 I B A 結果	R5 年度1年生(F) 6名受検	R5 年度2年生(E) 12名受検	R5 年度3年生(D) 11名受検
合計スコア	488 / 600	537 / 800	767 / 1000
リーディング	274 / 300	285 / 400	400 / 500
リスニング	214 / 300	252 / 400	367 / 500

利尻富士町の助成制度の活用

各種検定受検に関わり、利尻富士町では、令和元年度から「基礎学力の向上、学びの習慣付け、自信と挑戦心につなげる」ことをテーマとし、検定受検の1回目の全額補助、また令和4年度より1回目の助成での合格者については2回目の助成についても町で全額補助を行い、町全体として小・中学生に検定への積極的受検のサポート体制が確立している。また、I B A の結果と照らし合わせながら検定受検の目安とし、本校独自の学力向上推進教諭と連携を図りながら検定へ積極的に受検を促している。



【小学校への乗り入れ授業の様子】

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

授業評価アンケート等を実施し、生徒の英語に対する自信の深まり、英語検定受検や学習に対しての意欲について点検・評価を行っている。また、英検 I B A の結果において、正答率の低い問題を分析し、授業改善を推進することで英語力の保障に努めることができた。



【聞くことを意識した活動の様子】

(4) 改善後の取組

小中一貫教育実施1年目である今年度は、英検 I B A の活用を生かした授業改善を行ってきたが、全学年で、「聞くこと」に課題があることを踏まえ、A L T を効果的に活用しながら、小学校段階で意図的に英語を聞き理解する機会を増やすとともに、今後は英検 E S G を合わせて活用した系統的な授業づくりにつなげていく。

3 実践のポイント

利尻富士町の学習支援体制に加え、英検 I B A の結果を分析した授業改善を推進することで、生徒の検定受検意欲と外国語学習への取組の主体性の向上を図ったこと

未来社会を生き抜く資質・能力の育成を目指して

釧路市立北中学校 学級数 10 (校長 富田 直樹)

実践の概要

本校では、学校の教育目標の1つである「何事にも粘り強く取り組む力」の育成を図るため、英検 I B A の取組を活用した外国語授業の充実、指導と評価の一体化に向けたパフォーマンステストの改善・充実、外国語教育アドバイザーによる小中連携巡回訪問の活用を3つの柱として授業改善に取り組んでいる。

1 実践の目的

各種調査結果等の分析や日常の授業における評価等を通して生徒の学習状況を適切に把握し、授業改善につなげることにより、4技能5領域におけるバランスの取れた生徒の英語力の育成を図る。

2 実践内容

(1) 実施計画

英検 I B A の結果分析等により、生徒の外国語科に係る課題を把握し、分析結果と授業における生徒の学習状況を照らし合わせることを通して、各単元におけるパフォーマンステストの改善・充実を図る。

年間を通して、中学校区における小・中学校の外国語科担当教員による授業参観及び研究協議を実施し、小・中学校7年間を見通した年間指導計画の改善・充実を図る。

(2) 取組の具体

英検 I B A の取組を活用した外国語授業の充実

英検 I B A の結果分析を行ったところ、次のような結果が明らかになった。

- ・第1学年においては、リスニングを中心とした英語力が高いが、第2学年、第3学年では低下する傾向が見られること。
- ・リスニングが低下する反面、語彙力や読解力が向上していること。

以上の分析結果を踏まえ、生徒の語彙力や読解力の向上を、英語で話したり聞いたりする力の育成につなげられるよう、授業の導入に生徒同士が日常的なテーマについて英語でやり取りする「Small Talk」の活動を位置付けた。

指導と評価の一体化に向けたパフォーマンステストの改善・充実

単元末のパフォーマンステストで見取る生徒の英語力を焦点化した後、見取る英語力に応じた「目的・場面・状況」を設定した。その際、生徒が学習への粘り強さを発揮しながら、目的・場面・状況に応じて円滑なコミュニケーションを図ることができるグループ・ペア等の学習形態に留意しながらパフォーマンステストを構想し、単元の導入において生徒と共有した。

外国語教育アドバイザーによる小中連携巡回訪問の活用

中学校区における小・中学校の外国語授業の連携の推進に向けて、釧路市教育委員会所属の外国語教育アドバイザー（元文部科学省視学官）を招聘し、小・中学校の外国語担当教員が相互に授業を参観し、研究協議を行った。



【Small Talk に取り組む生徒の様子】



【1人1台端末でパフォーマンステストを共有する生徒の様子】



【目的・場面・状況に応じたコミュニケーションを図る生徒の様子】

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

・ の取組を通して、各単元における指導事項の明確化と教科書教材の活用方法の具体化につながるとともに、英語を用い積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の姿が多く見られるようになった。

・ の取組を通して、「目的・場面・状況」の設定の具体化や、単元のゴールと1単位時間の学習活動を有機的に結び付けることの重要性を小・中学校間で共有することができた。

・ ・ の取組の成果を踏まえ、今後、さらに話したり聞いたりする活動を通して言語材料に慣れさせたり、コミュニケーションを図る必要性のある言語活動を開発したりしながら、年間指導計画を改善・充実させる必要がある。

(4) 改善後の取組

小・中学校間で、7年間を見通した外国語科に係る資質・能力や学習内容を「CAN-DO リスト」により共有するとともに、英検 I B A や英検 E S G 等の各種調査結果の分析を通じた児童生徒の学習状況を踏まえた「小・中学校教員による IT 授業の実施」に向けたカリキュラムを開発する。

3 実践のポイント

- ・英検 I B A 等の各種調査結果の分析を通して、生徒の英語力を適切に把握し、授業改善を図ること
- ・各単元において、生徒が英語でコミュニケーションを図る必要性を感じる「目的・場面・状況」を設定すること